

一生涯を通した歯科保健対策の確立をめざして(14)

平成 19 年度新規事業：富岡市成人歯科検診を終えて

社団法人富岡甘楽歯科医師会
公衆衛生担当理事 黒澤良介

はじめに

富岡甘楽歯科医師会は、群馬県の南西部に位置する富岡市（人口約 5 万 5 千人：2006 年 3 月 27 日妙義町と合併）と甘楽郡（下仁田町、南牧村、甘楽町）で歯科医療に従事する会員歯科医師（37 名）と常勤歯科衛生士 3 名で一生涯を通した歯科保健対策の確立をめざしている。

さて、長寿社会を迎えた今日、8020を達成することがQOL(Quality of life)の向上に繋がると言われている。特に成人期の歯周疾患をはじめとした歯科疾患の予防対策を充実強化することが、健康寿命の保持増進に貢献することが判ってきた。

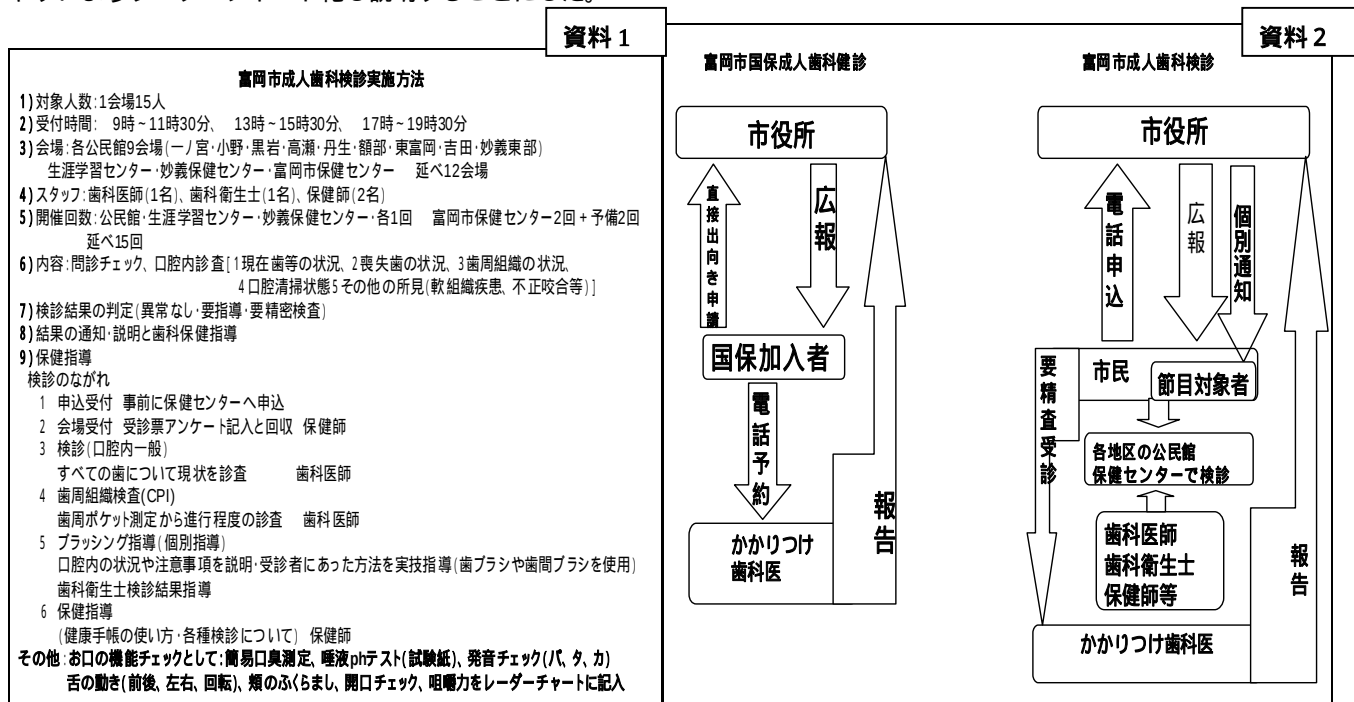
平成 12 年の「元気県ぐんま 21」における 2010 年の目標値は、「進行した歯周疾患を有する人の割合を 40 歳で 22%以下、50 歳で 30%以下」、また、「定期的に歯科検診を受けている人の割合を 30%以上」としている。

富岡市においては、平成 16 年に「健康とみおか 21」を策定し、「進行した歯周疾患を有する人の割合の減少」を県と同じくするも、「定期的に歯科検診を受けている人の割合を 50%以上」とした。

今回、富岡市において独自性の高い新規事業「富岡市成人歯科検診」を実施した。また「健康とみおか 21」の策定にあたり無作為による富岡市在住の 20 歳以上男女 3,142 名を調査対象とした有効回答数 1,614 名のアンケート調査結果を参考に、今後の成人歯科検診のあり方を模索しながら報告する。

経緯と実施方法

当歯科医師会からの長年にわたる成人歯科検診の必要性を訴える働きかけにより、富岡市は、平成 13 年度から国保成人歯科健診を開始した。対象者は 20 歳以上の国保加入者とした。受診者は、開始年度の 13 人をピークに 18 年度は 8 人という毎年、極少数であり、受診率の低さが懸念されていた。国保成人歯科健診の実態から脱却すべく、18 年度は新たに「健康とみおか 21 推進計画」の教育事業の開催・支援の項目に「成人歯科検診」を掲げ、具体的に実のある検診事業とするため、平成 19 年 2 月より富岡市健康推進課と具体的に打ち合わせ会議を開始した。成人歯科検診（歯周疾患検診）を実施するにあたり問題点は受診率の低さにあり、県内で多く行われている各医療機関での個別検診ではなく、地域性（受診する人の交通手段）、時間（受診しやすい時間帯）、内容（歯周組織検査、口腔機能向上、禁煙指導、検診したことで得られる満足及び効果度等）について検討を重ねた。その結果、歯科医師による C P I 検査を含む検診及び指導をきめ細やかに行うことを目的としたため、一会場 15 名以内と制約を設けた。検診後、歯科衛生士による個別のブラッシング指導や今回の目玉でもある口腔機能チェック（口臭、唾液 pH、発音回数（パ、タ、カ）、舌の動き、頬のふくらまし、開口量、咀嚼力（チューイングガム法））を行い、受診者に解りやすいようレーダーチャート化し説明することにした。



成人歯科検診を終えて（実施結果とアンケート結果）

実施回数：午前実施 9 時～11 時 30 分 3 回、午後実施 13 時～15 時 30 分 8 回、夜間実施 17 時～19 時 30 分 2 回、計 13 回
総事業費予算額：53 万円

40 歳以上の富岡市住民は 31,046 名であるが、節目年齢の人（資料 3）には、個別に通知している。また受診者の内訳を（資料 4）に示す。

資料 3

節目検診対象者	
40 歳	701
50 歳	634
60 歳	985
70 歳	623
合計	2,943

資料 4

富岡市成人歯科検診受診者内訳(名)

	年齢	40	50	60	70	80	計	総計
女	節目	7	12	27	16	0	62	101
	以外	2	15	18	4	0	39	
男	節目	2	0	4	10	0	16	26
	以外	0	0	9	0	1	10	
計	節目	9	12	31	26	0	78	127
	以外	2	15	27	4	1	49	
総計		11	27	58	30	1	127	

資料 5

成人歯科検診アンケート結果(8/2～8/31 参加者 82 名中 73 名)

性別	男	女			計
	17	56			73
年齢	40 代	50 代	60 代	70 代	計
	11	20	28	14	73
周知方法	広報	ハガキ	胃がん検診	官報	
	14	46	6	2	
受診理由	心配	知人の勧め	家族の勧め	ハガキ	無料
	37	5	2	25	7
曜日の希望	平日	土曜	日曜	いつでも	無し
	28	11	7	23	1
時間帯の希望	午前	午後	夜間	いつでも	
	24	19	13	23	
時季の希望	春	夏	秋	冬	いつでも
	12	10	10	3	42
参考になった内容	診察	歯科指導	機能チェック	その他	
	53	64	55	1	

考察

国保成人歯科健診と比べ受診者数は増えた(資料 4)。しかし、県下の歯周疾患検診受診率を見ると下仁田町の 29.6%を最高とし、実施している市町村の受診率は平均して約 7.6%である(県の歯周疾患検診実施市町村概要 18 年度の実績より)。富岡市成人歯科検診事業を節目検診と捉えた場合、参加者 127 名中から 78 名が該当し、受診率は約 2.7%となる。この数値は他の市町村と比べてかなり低い。それでも今回は、広報だけに頼らず個別による周知方法を取ったことは、受診する動機付けに有効であることが、アンケート調査結果からもわかる(資料 5)。

男性より女性、また壮年期より高齢期の人の受診率が高いことがわかる(資料 4)。社会的、時間的に余裕があると考えられる人の受診率が高いことが伺われる。住民の健康に対する関心を治療から予防へ、更に一歩進んだ健康増進へと考えるならば、早期成人期からの検診への動機付けが重要である。アンケートの意見には、「もっと早く知っていれば」と悔やんでいる人もあった。

「健康とみおか 21」事前アンケート調査による定期検診を受けている人は 13.3%であった。今回の検診では歯科保健に関心がある人が受診したと推察できるにもかかわらず、定期検診を受けていると答えた人は 23.6%であった。このことは「健康とみおか 21」で「定期的に歯科検診を受けている人の割合を 50%以上」という目標にはほど遠い。より目標に近づけるための施策を立てなければならない。

アンケート結果より、[参考になった内容]については、おおむね満足している結果が出ている。これは、歯科医師のきめ細やかな検診・指導、歯科衛生士のブラッシング及び「口腔機能チェック」の結果に対する具体的な歯科保健指導、また保健師においては基本的な健康指導(禁煙、食生活等)ができ、口腔と全身の健康が密接に関連していることを理解したからだと思う。今回の目玉の一つである「口腔機能チェック」の項目選出においては、介護予防の「口腔の機能向上」に関心を持つと同時に自ら行えるように配慮した。

節目年齢で分けて見ると(資料 6)の表になる。今回の受診者たちには、現在歯数が 20 本以上あり、8020 の達成に期待がかかる。また、(資料 7)より要医療に占める歯石除去を含む歯周疾患治療の割合が多く見られる。このことから歯周疾患の適切な予防と管理が必要なが伺える。

資料 6

年齢	40 才		50 才		60 才		70 才	
性別	女	男	女	男	女	男	女	男
受診者数	7	2	12	0	27	4	16	10
平均現在歯数(本)	27.1	28.5	26.4	0	28	27	22.1	24.3

資料 7

判定(人) 下段(%)			要医療(101 人)の内訳				重複あり
異常なし	要指導	要医療	歯石除去	歯周治療	むし歯治療	補綴処置	その他
8	18	101	33	63	35	10	15
6.3	14.2	79.5	32.7	62.4	34.7	9.9	14.9

課題

行政には財政の健全化が求められているが、医療費の負担増加を抑制するには長期の視野に立ち予防に力を入れるべきだと考える。新規事業の「成人歯科検診」では個人負担金はないが、国保成人歯科健診においては、個人が 1,500 円を負担している。今年度は、国保成人歯科健診受診者はいないと聞いている。やはり自己負担金があることは、受診抑制の一因になるらしい。今後も無料化を継続していく事が、受診率の向上に繋がると思う。受診率を上げかかりつけ歯科医を持ち定期管理をすることで、歯科疾患の予防対策が充実強化され QOL の向上に結びつく。歯科疾患が全身の健康に影響していることを広く啓発普及しなくてはならない。

今や、生活習慣病とまで言われている歯を失う二大疾患であるむし歯と歯周疾患。むし歯はフッ化物の応用、歯周疾患においては適切な歯みがき方法、そして定期管理で、ある程度予防できる。受診者に対し、歯科診療所で行う個別指導があるが、地域性、社会性等を考慮した集団的指導は益々重要な位置づけとなる。歯科医師はじめ予防的役割を担う歯科衛生士が行政や民間企業の中で係わるような社会作りをすることで歯科保健の啓発普及がおこなわれると思う。今回の成人歯科検診から見えてきたことは、ただ単に疾病があるかないかを診るだけの検診ではなく、時間をかけて口腔の機能の重要性を説明、指導していくことで、受診者は理解を深め啓発されていくものと改めて感じた。一会場 15 名以内の制約を設け、きめ細やかな指導を目的とした検診だったが、今後受診者が増えてきたときの対応も検討していかななくてはならない。このような成人歯科検診を継続することで、歯科保健に興味を持ち、その重要性を認識し、「かかりつけ歯科医」を持つきっかけとなり定期管理をしていくことが健康寿命の延伸につながると確信する。

最後に、データー及び資料の作成に実施主体である富岡市保健福祉部健康推進課の皆様にご協力いただいたことを追記する。